

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173000035		
法人名	社会福祉法人 富良野あさひ郷		
事業所名	グループホーム ほがらか		
所在地	富良野市春日町12番15号		
自己評価作成日	令和3年12月5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=tr ue&JigyosyoCd=0173000035-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和4年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 入居者毎に担当職員を付け、毎月ご家族へ定期報告を行ったり、入居者個人とも密に関り信頼を得られるように努めている。 ホーム便りやブログ、めんこい通信(入居者個人向けの通信)等を定期的に作成し、ご家族や地域に情報の発信を行っている。 外部のリハ職や訪問看護師、同法人内特養の管理栄養士などに協力を頂き、入居者個々の状況を確認して、体調管理や生活リハビリ(その人にあった日常でのお手伝い)、個人運動を実施して認知症予防や機能の維持につなげている。 感染症予防対策として、1日2回の換気、トイレ掃除、消毒作業を徹底して行っている。また、ホーム内に感染症を持ち込まないように出勤時の体調管理(検温等)と手洗いうがいも徹底して行っている。 コロナ禍で外部との交流をなかなか図れない中、ホーム内で入居者にも手伝って頂きながら毎月、食事作りやおやつ作り、カレンダーの作成などを行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>多くの福祉事業を展開している法人が平成13年に1ユニットで開設し、平成26年に2ユニットとなりこの地に新築移転しています。移転を機に、事業所名を「ほがらか」と改名、独自の理念を職員と共に策定し、地域に根ざした新たな歩みを進めています。周辺地域との関係は良好で、冬場は駐車場の除雪作業を隣接の建設会社が協力下さり、地元の方からは新鮮な野菜のお裾分けが届きます。事業所はブログやホーム便りや地域や家族への情報発信に努め、運営の透明性を高めています。特に家族にはコロナ禍で会えない時間を補えるように、個別対応で担当職員記載の報告書、「めんこい通信」の発行、運営推進会議録や介護計画書の郵送時には要望書記載用紙を同封し、想いを汲み取り、迅速な対応に努めるなど、安心して共に利用者を支えられるように取り組んでいます。ケアサービスでは、利用者のありのままの声を詳細に書き記し、想いの把握と情報分析に役立て、作業療法士、管理栄養士、訪問看護師等の協力や通院時の医師からのアドバイス等を参考に多角的視点から個々の介護計画を立案し、生活リハビリや残存機能に応じた訓練を取り入れ乍ら心豊かな暮らしに繋げています。閉塞感を払拭するように、誕生会や夏祭り、敬老会、クリスマス会、新年会、20周年記念行事など毎月様々な室内行事を企画し、楽しみの時間を創出しています。誕生日ケーキやお好み焼き、鮭のちゃんちゃん焼きなど、一つの料理を皆で作る達成感や満足感、団樂の幸福感が繋がり、コロナ禍だからこそ繋がりを大切にしたいと心砕いている事業所です。</p>
--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18, 38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2, 20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元との関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36, 37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11, 12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30, 31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関を入り、すぐの所に理念を掲げており、職員で共有し、理念に基づいたケアの実践を心がけている。	事業所の移転を機に、職員皆で理念を見直し策定しており、常に理念が基盤となり、職員のケアのあり方の拠り所となっています。理念は玄関に掲示し、パンフレットやホーム便りにも明記して、家族や訪問者、地域住民へ事業所の基本姿勢の周知を図っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり、地域の行事等には参加出来ないが、冬の除雪作業を近隣の建設会社の協力を得られている。	今年度も地域との交流行事は自粛していますが、清掃活動へ参加し、回覧板で情報を集め、関わりを持つよう努めています。除雪作業は隣接の建設会社が支援下さり、野菜のお裾分けも近隣者から届くなどコロナ禍でも繋がりを深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前には地域のサロンに参加し、認知症の啓蒙活動を行っていたが現在は行えていない。ホーム独自の物ではないが法人の取組として認知症カフェ(オレンジカフェ)を令和3年10月より実施している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて、文章での開催を行った際には、資料と共にご意見用紙を送付し、意見を頂いた際にはホームで検討しケアや運営に活かしている。また、推進会議を実施した際にも、現在のホームの状況等を伝え、意見があった際には活かしている。	コロナ禍の状況に応じて、参集会議か書面会議を2カ月毎に開催しています。事業所の運営状況、感染予防対策など報告し、各構成メンバーや家族から意見、要望の汲み取りを積極的に図り、サービス向上に生かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度、入居者の状況を報告している事と、都度市の担当者よりメールにて介護保険やコロナ関連など、必要な情報を頂いている。また、運営推進会議にも参加して頂いている。	コロナ感染症防止対策の情報や制度上の疑問点等の問い合わせ、介護認定調査時など、常に連携し、適切な対策を講じています。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時に有益な意見や情報を交換しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での研修会で議題にし、身体拘束について学び、正しく理解しケアに当たるようにしている。施錠については防犯の観点から、夜間帯は実施しているが、日中には開錠し拘束しないケアを実践している。	指針の下、毎月の職員会議内で委員会を開催し、全職員に周知を図り、基本的内容の理解を深め、身体拘束や抑圧感の無いケアを実践しています。研修会も定期的に開催しています。施錠は夜間のみとし、安全且つ自由な暮らしを確保しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、ホーム内での研修会で議題にして、虐待について学んでいる。また、月に1度の職員会議にて不適切ケアなど、虐待につながる事項についての確認を行い、防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム利用者にも後見人を立てている方がおられ、必要に応じて、後見人の方へ相談等を行っている。今後も、そういったケースが増える事も考えられる為、外部研修などで再度学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、利用契約書、重要事項説明書を基に契約者へ納得いただけるように説明している。また、規定や内容が改定された際にも、再度説明を行い、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの発送時や推進会議の資料送付時にご意見用紙を同封し意見を頂く場を設けている。また、運営推進会議を開催時には直接意見や要望を聞くことができている。	まん延防止期間の為、現在は面会を中止しており、リモート面会を進めています。家族にはブログ配信に加え、担当職員から生活の様子や健康状態等を記した「めんこい通信」やホーム便りで近況を伝えています。運営推進会議録や介護計画書の郵送時には要望書記載用紙を同封して意見表出に繋げ、毎月の電話でも状況を報告しながら家族の思いを汲み取っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、職員会議を開催し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、都度職員より、意見や提案があった際には改善に向け、話し合いを行っている。	毎月の職員会議や日常業務の中で、意見交換や課題解決に向けた話し合いが持たれ、利用者支援の充実や働きやすい職場環境整備に生かしています。個人面談は状況に応じて都度行っています。職員はコロナ禍でのレク活動の充実を図るための提案や各委員を担うなど、積極的に運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて人事考課制度の運用を始めており、職員を適正に評価出来るようにしている。また、職場環境についても、その時々に応じて業務改善や人員の調整を行うなどの整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍にあり、外部の研修には参加が出来てない。ホーム内での研修開催は毎月テーマを決めて行い、法人内研修への参加は状況に応じて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍にあり、なかなか外部の事業所との交流は図れないが、法人内の事業所とは意見交換を行う事は出来ている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で、可能な限り、ご本人とも話しを出来る機会を作り、本人からの要望も聞き取り、入居後のケアにつなげている。		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階であったり、入居前面接・聞き取りの際に、ご家族の思いや要望も聞き取り、ケアに繋がれるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階で必要であることを見極め、ショートステイの利用や、病院への受診など対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員共に互いに”役割”を持ち、支え合いながら生活をしていけるような環境を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度は必ず定期報告として、現状を伝えると共に、必要に応じてケアについての相談や体調の変化についての連絡も行い、家族も一緒に考えて頂けるように対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医やその他利用していた業者などとのつながりは可能な限り継続できるように努めているが、コロナ禍にあり、外出を控えている為、馴染みの人に会う事や、馴染みの場所へいく事は出来ていない。	コロナ禍で通院以外の外出や面会は途絶えています。家族や親族とは電話や手紙で親交を温めています。新年会で自慢の声を披露したり、雑祭りで得意な料理を作ってもらうなど、これまで培ったものを継続して生かせるよう、場面作りに努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係のため、合う・合わないはあるが、孤立してしまわない様に、都度職員が介入し、関係性を維持していけるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特養に移られた方に関しては、必要に応じて、ホームの職員が伺い、ケアの確認やアドバイスをし、フォロー体制は作っている。また、契約解除となったご家族とも街であった際には、最近の状況を聞いたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活でもある為、食事の時間は一緒となり、余程でない限りは自由には出来ていない。それ以外の時間は自室で休まれたり、TVを観る、他の方と話しをするなど、可能な限りは本人の希望や意向の把握にも努めている。	入居時はセンター方式を活用し、家族からの情報を基に思いの把握に努めています。入居後は寄り添う介護の中から話しを聴き、本人の発した言葉を記録に残して職員間で共有し、心情の理解や暮らし方の希望の把握に繋がっています。困難な場合でも、身体の動き、表情から気持ちを汲み取っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前においても、家族や担当ケアマネ、その他利用しているサービス事業所より情報を聞き、本人の生活についての把握に努めている。また、入居後も、本人との会話の中で把握していけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	総合記録シートへの記入や、その日の出来事をケース記録へ記載することで、現状の把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや、家族と話しをしたケアの内容など、現状をしっかりと組み込みプランを作成している。また、外部の方(リハビリ職や歯科医師、管理栄養士など)よりアドバイスを頂いたこともプランに反映させている。	介護計画は利用者一人ひとりの行動や言葉を記載したモニタリング統括表を基に、利用者の変化を読み取り、介護支援専門員を中心にサービス担当者会議にて意見交換が行われ、3ヵ月毎に作成しています。本人、家族の意向は元より、管理栄養士、作業療法士等の意見も取り入れ、個別のプログラムを作成し、身体機能の維持、向上に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートやケース記録等で、職員同士情報を共有し、自身が勤務ではない日の出来事もしっかりと把握してケアに繋がれるように努めている。また、その記録をプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍にあり、既存のサービスでは対応しきれない事もある為、柔軟な考えで支援を実施している。具体的な所で、通院対応などの外出を感染予防の為、職員にて対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて、外部の地域資源を十分に活用は出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前のかかりつけ医に継続して受診している。協力医療機関ではホーム職員の対応にて病院受診を行っている。その他医療機関においても、コロナ禍にある為、現在はホーム職員にて対応し、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族が希望する病院を優先しています。以前からのかかりつけ医への受診は家族の支援を基本とし、協力病院への受診は職員が対応しています。コロナ禍で状態変化が無い場合は、医師と相談の上、薬の受け取り等を職員が行っています。週2回訪問の訪問看護師は24時間体制で利用者の健康管理に努め、職員との連携も図られています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護に来て頂ける体制となっており、都度体調などの相談が出来ている。また、体調不良時には訪問看護へ連絡しアドバイスを頂き、適切な受診が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には週に1度は担当のソーシャルワーカーと連絡を取り、状況の把握を行い、退院時期の調整なども行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ホームでは終末期ケアを実施していない為、その旨ご家族には契約時に納得頂けている。また、ホームでの対応が難しくなってきた時点でご家族へ相談し、次の段階(特養)へ移行出来るように調整している。	入居時に終末期支援を行っていない旨を説明し、同法人運営の特別養護老人ホームへの入居手続きを同時に行うことを提案しています。事業所での生活が困難になった時点で家族と話し合い、今後の対応を検討しています。運営母体の協力的なバックアップ体制が安心に繋がり入居を決める利用者、家族が多くを占めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で実施している普通救命講習に参加したり、同法人特養の看護師に来て頂き、研修会を開き、緊急時の対応を学び、対応出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、防災センターと連携して、年2回消防訓練を行っている(今年度は2回目の訓練を2月に予定)。前年度の2回目の訓練で水害を想定した垂直避難の訓練を実施している。	今年度は夜間想定火災避難訓練を利用者と職員全員参加で実施しています。また、水害時訓練として垂直移動訓練も行っています。発電機及び飲食料、防寒器具類の備蓄を確保し、発電機操作の手順表を作成しています。業務継続計画の策定に向け検証しています。	防災意識を高め災害対策を講じていますが、入浴介助、トイレ介助、食事介助、調理中、夜勤業務中等、利用者の様々な居場所を設定した避難訓練の実施を期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に合った言葉かけや対応を行っている。また、月に1回、不適切ケアについて振り返る場を設けると共に、日々のケアの中でも、互いに注意し合うよう心掛けている。	職員は接遇研修を受け、利用者の誇りを傷つけない言葉かけや対応に努めています。入浴時や排泄時には羞恥心に配慮し、不必要な同室介助を避け、ドア越しの見守りを行い、名前は苗字に「さん」付けを基本としています。個人情報安全に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できることに対しては、本人の意思を確認しながら実施し、出来る限り、本人の決定に沿ってケアを行うよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	毎日同じではなく、その日その人の、体調や気分に合わせて生活を送って頂けるように考えてはいるが、本人のペースに合わせた過ごし方が、なかなか難しく、職員の都合での対応になってしまう事も多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪時の髪型や普段の服装についても、本人の希望を優先し、意思表示が困難な方に対して、元の好みを家族より聞き取るなどしてその人にあった身なりにしている。また、食べこぼしなどで汚れた服は都度取り換えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや下膳、食器洗いなど、入居者に出来る事を手伝ってもらいながら、食事に興味を持って頂けるように支援している。	副食は同法人の特別養護老人ホーム厨房で調理された栄養バランスの良い料理を提供しています。誕生会や季節行事では利用者の希望を取り入れた手作りメニューを提供し喜ばれ、利用者も得意分野で力量を発揮しています。生寿司や仕出し弁当を取り寄せたり、お裾分けの野菜で一品加えるなど、食卓を彩り、利用者の食欲をかき立てる工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合記録シートを活用して食事・水分摂取量を把握し、確保出来るように努めている。また、なかなか食事が進まない方については、管理栄養士に相談したり、受診の際にかかりつけ医へ相談し、栄養補助飲料等を処方して頂く事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、自身で出来ない方については介助で口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の状況を把握し、その人に合った時間での誘導や声掛け、排泄物品を使用し、可能な限りトイレでの排泄を継続して頂けるように支援している。	トイレでの排泄を基本としており、利用者の排泄リズムを分析し、個別の時間間隔でさりげなく声掛け、誘導を行っています。本人の身体の状態や不安感を考慮し、布下着や排泄用品、ベッド上の交換、ポータブルトイレ使用、二人介助など工夫し、より快適に安心して過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を強化したり、なるべく動いてもらう(運動やお手伝いなど)事を行っているが、それでもでなければ下剤に頼ってしまっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	職員の配置により入浴日は決めてしまっているが、入浴の順番は本人に確認しながら行っている。	一般浴槽のほか特殊浴槽も設置して、全員が湯船に浸かれるように態勢を整えています。入浴は週2回を目安に、体調や状況に応じて無理強ひせず、シャワー浴、清拭など支援方法を工夫し、衛生保持に努めています。寛ぎの時間では得意な歌も飛び出し、職員と1対1の会話から気持ちや要望も聞き取り、プランに生かすことに繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない様に気をつけながら、日中は少しの時間でも横になり休んで頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬マニュアルを作り、個人の薬について把握している。病院受診時に服薬内容が変更となった際には、変更によって生じた変化を都度確認し、記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ物などのお手伝い、読書や折り物など、その人に合った事を実施して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍にて、病院への受診以外の外出は実施出来ていない。	病院への通院で外出気分を味わうほかは外出を控えていますが、近隣の散歩や感染症防止対策を講じて、近くのふれあいセンターへ出かけ桜見物を楽しんでいます。野外行事の代わりに屋内での季節行事、食事会、歩行訓練など個別に対応し、気分転換や機能低下予防支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内で現金を持つことはトラブルのもととなる為、支援していない。コロナ禍にあり、買い物外出などお金を使用する様な場面も作ることが出来ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からかけることはないが、ご家族の希望に応じて電話を取り次いだり、届いた手紙を代読するなどの支援は行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや電気のON・OFFで採光を調整したり、季節により飾り物を変えて、季節感を感じて頂けるように支援している。また、入居者の中には鏡でも混乱してしまう方もいる為、一定の場所からは見えない様に工夫したりしている。	リビングには神棚を飾り、壁には利用者との共同作品である、ちぎり絵や習字、スナップ写真、ホーム便りなどを掲示し、癒しの空間となっています。玄関直ぐに洗面台が設置され、室内にウイルスを持ち込むリスクを軽減する対策に生かされています。空気清浄機や加湿器も用意し、感染症対策強化に努め、安心と快適さを提供し、皆で楽しめる場を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにくつろげるように数か所にソファを設置すると共に、自室でも過ごすことが出来るよう、テーブルや椅子を設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの物を持参いただくように話しはするが、なかなか持って来られる方はいない。家族の写真や飾っている方はおられる。	居室には洗面台、収納棚、チェスト、介護用ベッド、防災カーテンを常設し、自立を支える環境を整えており、居室入口には職員手作りの表札を掲げ温かく迎えています。家族写真や届いた便りなど飾り、趣味の人形や書籍などを手元に置き、心地よく安らげる居室を作り上げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニットの空間が広い為、手すりの他になるべく掴んだり、手をついたりできるようにテーブルやソファの配置に気を配っている。また、時計を複数設置したり、カレンダーを大きい文字の物にしたりしている。		